

平成23年度（第55回）  
岩手県教育研究発表会資料

特別支援教育

# 特別支援学校（知的障がい）における 自閉症のある児童生徒への 指導・支援の充実に関する研究

— 自立活動における他者とのかかわりに関する実践を通して —

平成24年2月14日  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生  
所属校 岩手県立盛岡みたけ支援学校  
佐々木清悦



## 目 次

I	研究目的	1
II	研究の内容と方法	1
1	研究の内容と方法	1
2	研究の対象	1
III	研究結果の分析と考察	2
1	特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本構想	2
(1)	特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本的な考え方	2
(2)	他者とのかかわりに関する自立活動	4
(3)	特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に必要な指導面・推進面への取組	4
(4)	特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本構想図	6
2	他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案	8
(1)	他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた手立ての試案の作成	8
(2)	検証計画	10
3	他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案に基づく指導実践	11
(1)	指導実践の概要	11
(2)	指導実践の内容	11
4	実践結果の分析と考察	20
(1)	アンケート調査の内容と方法	20
(2)	調査結果の分析と考察	20
5	他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援についてのまとめ	22
(1)	成果	22
(2)	課題	23
IV	研究のまとめ	23
1	研究の成果	23
2	今後の課題	23

〈おわりに〉

【引用文献】

【主な参考文献】

## I 研究目的

自閉症のある児童生徒は、障がいの特性上、他者とのかかわりに困難さを示すことが多い。そのため、記憶力や作業能力に優れていても、他者との関係を築けないことや、集団活動への参加について困難さがあり、学校生活の充実や就労実現へ向けての他者とのかかわりに関する取組が課題となっている。平成21年に改訂された特別支援学校学習指導要領では、自立活動に「人間関係の形成」の区分や関係する項目が新設されるなど、他者とのかかわりに関する内容がより一層明確になった。このことから、自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標を設定した上で、自立活動の内容を適切に取り入れながら、他者とのかかわりに関する指導・支援を充実していくことが求められている。

しかし、県内の特別支援学校（知的障がい）では、自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標と自立活動の内容との関連を明確にしないまま指導しているなどの指導面における課題があるものと思われる。また、自立活動の基本的な考え方や自立活動を構成する項目等を十分に理解していなかったり、指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解が十分に行われていなかったりするなどの推進面における課題もあるものと思われる。これら自立活動における指導面・推進面についての課題は、今回の学習指導要領で新設された区分を含む他者とのかかわりに関する自立活動の指導についても同様であり、県内の特別支援学校（知的障がい）では、自閉症のある児童生徒への他者とのかかわりに関する指導・支援が十分に行われていない現状が見られる。

このような状況を改善するためには、自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標を設定した上で、個別の指導計画を活用し、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた領域・教科を合わせた指導や各教科等における指導での取組、時間を特設した指導での取組について、実践を通して明らかにしていくことが必要である。また、学年会において、他者とのかかわりを含めた自立活動に関する基本的な考え方などを理解することや、指導に当たる教師間での指導場面や指導内容、支援方法の共通理解を深めるための取組についても、実践を通して明らかにしていくことが必要である。

そこで、本研究は、特別支援学校（知的障がい）における他者とのかかわりに関する指導面・推進面の要件を探り、実践を通して自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援について明らかにし、自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に役立てようとするものである。また、研究成果物として資料にまとめ、各学校における自閉症のある児童生徒への指導・支援の推進に役立てる。

## II 研究の内容と方法

### 1 研究の内容と方法

- (1) 研究の基本構想の立案（文献法）
- (2) 手立ての試案の作成
- (3) 指導実践
- (4) 実践結果の分析と考察（質問紙法、記録法）
- (5) 研究のまとめ

### 2 研究の対象

岩手県立盛岡みたけ支援学校

### Ⅲ 研究結果の分析と考察

#### 1 特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本構想

(1) 特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本的な考え方

ア 特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒をめぐる今日的動向

(ア) 自閉症のある児童生徒を取り巻く現状

自閉症とは、3歳位までに現れ、他者との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障がいであり、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されている。これらの特徴は、ものごとを裏表なくとらえることや、見通しをもつことができる活動をきちんとやり遂げること、純粹さあふれる言語表現や表情、絵画や造形における豊かな表現など、自閉症のある児童生徒のよさとして発揮されることがある。一方では、場面や他者の表情から場の雰囲気や感情を理解できずに、他者に対して適切ではないかかわり方をしたり、変化に対する不安や抵抗を示したりするなどの困難さとして表れることもある。

国立特殊教育総合研究所（現 国立特別支援教育総合研究所）が、全国の盲・聾・養護学校を対象に実施した自閉症に関する調査（2005）によると、養護学校の教師が自閉症のある児童生徒への指導において困難を感じることで、「問題となる行動が多い」、「集団に参加しにくい」、「コミュニケーションがとりにくい」の項目を多くあげている。

また、高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センターでは、特別支援教育、訓練、福祉等の機関における作業学習、職場実習、職業訓練等において、教育・訓練等の効果を把握するために「就労移行支援のためのチェックリスト」（2009）を作成している。このチェックリストでは、就労する前の基本的な職業的課題の必須チェック項目として、3領域34項目を示している（【表1】）。

梅永・前川・小林（1991） 【表1】就労移行支援のためのチェックリスト

は、自閉症のある方にとって、社会的スキルにおけるコミュニケーションスキルや対人スキルが作業理解、職業的自立への課題でもあるとしている。

これらのことから、自閉症のある児童生徒の対人関係やコミュニケーションといった他者とのかかわりの困難さへの対応が、学校生活の充実や就労実現に向けての課題となっている。

日常生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起床 ・生活リズム ・食事 ・服薬管理</li> <li>・外来通院 ・体調不良時の対処 ・身だしなみ</li> <li>・金銭管理 ・自分の障害や症状の理解</li> <li>・援助の要請 ・社会性</li> </ul>
働く場での対人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ ・会話 ・言葉遣い</li> <li>・非言語的コミュニケーション ・協調性</li> <li>・感情のコントロール ・意思表示 ・共同作業</li> </ul>
働く場での行動・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般就労への意欲 ・作業意欲</li> <li>・就労能力の自覚 ・働く場のルールの理解</li> <li>・仕事の報告 ・欠勤等の連絡 ・出勤状況</li> <li>・作業に取り組む態度 ・持続力 ・作業速度</li> <li>・作業能率の向上 ・指示内容の理解</li> <li>・作業の正確性 ・危険への対処</li> <li>・作業環境の変化への対応</li> </ul>

(イ) 特別支援学校学習指導要領の改訂

前述の国立特殊教育総合研究所における自閉症に関する調査（2005）によると、全国の知的障がい養護学校に在籍する自閉症の診断のある、又は可能性のある児童生徒は、小学部で47.5%、中学部で40.8%と、非常に高い割合が示されている。このような状況から、

自閉症の特性に応じた効果的な指導の形態について、筑波大学附属久里浜養護学校等による研究実践が行われた。これらの実践を受け、国立特殊教育総合研究所は、以下の2点を検討することが必要であるとした。

- ◆ 自立活動の視点から自閉症の特性に対応する指導内容を明確にし、個に応じて具体化すること
- ◆ 自閉症の特性に対応する効果的な指導方法（指導の形態）を明らかにすること

また、今回の特別支援学校学習指導要領の改訂では、障がいの重度・重複化、多様化に応じた指導の充実を図るため、自立活動の内容の見直しが行われ、新たな区分として「人間関係の形成」が設けられた。この区分の項目には、「他者とのかかわりの基礎に関すること」、「他者の意図や感情の理解に関すること」、「自己の理解と行動の調整に関すること」、「集団への参加の基礎に関すること」が示され、自閉症の特性に応じた効果的な指導の形態についての研究実践の内容が盛り込まれた内容となった。さらには、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（2009）において、自立活動の具体的指導内容例と留意点として、自閉症のある児童生徒についての記述が大幅に増えた。

これらのことから、私たち特別支援教育に携わる者は、自立活動の基本的な考え方を理解するとともに、文部科学省等における自閉症に対応した教育課程の編成等についての実践研究の成果を取り入れるなど、自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実を図ることが求められている。

#### イ 県内の特別支援学校（知的障がい）の自立活動のとらえ方と現状

特別支援学校（知的障がい）では、自立活動が1971年に学習指導要領に養護・訓練として新設された頃から現在まで、そのとらえ方が議論されてきているものの、明確なものとはなっていない。他の障がい種別の特別支援学校では、小・中学校、高等学校の通常教育に準じた教育に加えて、障がいによる困難さへの対応として自立活動の指導を行っていることが多い。しかし、特別支援学校（知的障がい）では、通常教育に準じた教育ではなく、知的障がいのある児童生徒の特性に即した、実際の状況下で体験的に学習する領域・教科を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）を教育課程の中核に据え、日常生活の充実や自立した社会生活の充実を目指している。このことから、特別支援学校（知的障がい）においては、教育課程の中核に据えた領域・教科を合わせた指導の中に、自立活動の内容を包括しており、自立活動の指導に焦点を当てて取り組んだり、自立活動の指導の時間を特設して取り組んだりという、自立活動の指導の歴史的積み重ねが少なく、指導場面や指導内容、支援方法が曖昧なままの取組となっていることが見られる。

当総合教育センターによる、岩手県内特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室における自閉症のある児童生徒への指導・支援状況に関する調査においても、以下のような結果となっている。

- ◆ 自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標と自立活動との関連を明らかにしないまま指導・支援を行っていることが考えられる。
- ◆ 自立活動の指導・支援を進める上で、必要とされる基本的な考え方やその内容について、理解されていない状況にあることが考えられる。
- ◆ 自立活動に関する考え方や指導・支援に関して、教師間での共通理解が十分になされないまま授業が行われており、自立活動を適切に取り入れた指導・支援が実践されていないことが考えられる。

これらのことから、特別支援学校（知的障がい）においては、自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標と自立活動の内容との関連を明確にしないまま指導しているなどの指導面における課題があるものと思われる。また、自立活動の基本的な考え方や自立活動を構成する項目等を十分に理解していなかったり、指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解が十分に行われていなかったりするなどの推進面における課題もあると思われる。

(2) 他者とのかかわりに関する自立活動

自閉症のある児童生徒の学校生活の充実や就労実現へ向けては、障がいの特性から生じる対人関係やコミュニケーションといった他者とのかかわりへの困難さへの対応が求められている。

したがって、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとするために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う自立活動の指導を充実させていくことが必要である。

そのためには、学習指導要領に示されている内容から必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて具体的な指導内容を設定することが大切である。その際は、自閉症のある児童生徒の具体的な活動をイメージしながら、他者とのかかわりに関する具体的な指導内容を設定することも必要である。

ただし、自立活動の内容は大綱的に示してあることから、文言だけでは具体的な指導内容を設定することがイメージしにくい場合がある。

そこで、自立活動の区分や項目に基づき、他者とのかかわりに関するねらいとその視点として4つに分類し（【表2】）、この4つの視点ごとに具体的な活動をまとめた他者とのかかわりに関する指導内容表を作成した。作成に当たっては、盛岡市立仁王小学校特別支援教育研究部の「社会生活構成要素」（2009）を参考にした。この「社会生活構成要素」の各要素は、自立活動の各項目との関連性が明記されている。その中から、他者とのかかわりに関する要素を抽出したり、自立活動との関連を検討したりした。そして、他者とのかかわりに関する要素を整理することによって、他者とのかかわりに関するねらいとして4つに分類し、この4つの視点ごとに具体的な活動をまとめた他者とのかかわりに関する指導内容表を作成した。

【表2】他者とのかかわりに関するねらいとその視点

視点	他者の理解に基づいた行動	心理的な安定・自己の理解に基づいた行動	コミュニケーション	集団活動への参加
他者とのかかわりに関するねらい	言葉や表情、身振りなどから教師や友達等の意図や感情を理解し、力を合わせて行動する	自分の特徴などを理解し、集団の中で、自分の気持ちや感情をコントロールして状況に応じて行動を選択・決定・実行する	言葉などのコミュニケーション手段により、教師や友達等の意志や感情を受け止めたり、場や相手等の状況に応じて、自分の意志や感情を伝えたりする	集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、集団活動に参加する
自立活動との関連	3 人間関係の形成(1)(2)	2 心理的な安定(1)～(3) 3 人間関係の形成(3)	6 コミュニケーション(1)～(5)	3 人間関係の形成(4)

(3) 特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に必要な指導面・推進面への取組

ア 指導面への取組

(ア) 自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定

自閉症のある児童生徒への、学校生活の充実や就労実現に向けての対人関係やコミュニケーションといった他者とのかかわりについての指導・支援を考えるに当たっては、教育的ニ

ーズに即した目標を設定した上で、指導場面ごとの目標や指導内容、支援方法を検討していくことが必要である。

特別支援学校（知的障がい）では、実際的な状況下で体験的に学習する領域・教科を合わせた指導が中心となっていることから、その具体的な場面の中から、他者とのかかわりの活動を取り出して、目標や指導内容を設定する場合がある。つまりは、活動ありきの目標や指導内容ということになる。そのため、指導内容や目標が、活動ごとによったり、場当たりのなものとなったりすることがあり、教育的ニーズに即した目標を設定した上で、指導場面ごとの目標や指導内容、支援方法を検討しているとは言えない状況である。

したがって、自閉症のある児童生徒の学校生活の充実や就労実現を見据えた教育的ニーズを踏まえた上で、他者とのかかわりに関する指導内容を整理・焦点化し、目標を設定することが大切である。そして、個別や集団の指導場面における具体的な活動を想定しながら、それぞれの指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法を設定することが、自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実につながるものとする。

#### (イ) 個別の指導計画の活用

自閉症のある児童生徒への、学校生活の充実や就労実現に向けての対人関係やコミュニケーションといった他者とのかかわりについての指導・支援を考えるに当たっては、教育的ニーズに即した目標を設定し、一貫性のある継続した取組にすることが必要である。

個別の指導計画は、教育課程や単元の指導計画に基づき、児童生徒一人一人の具体的な目標や指導内容、支援方法を明確にし、日々の授業に生かすためのものである。

他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導は、①領域・教科を合わせた指導、②各教科等における指導、③自立活動の時間を特設しての指導において行われる。したがって、個別の指導計画は、他者とのかかわりに関する指導内容や目標を指導場面ごとに、支援方法を含めて作成することが必要である。

また、個別の指導計画は、それを作成するだけにとどまらず、指導に当たる教師間の共通理解資料としたり、学年や学部間の引継資料としたりすることも大切なことである。

これらの個別の指導計画の作成及び活用を図ることにより、一貫性のある継続した指導・支援につながるものとする。

#### (ウ) 指導形態それぞれのよさを生かした指導・支援

自閉症のある児童生徒への他者とのかかわりに関する指導・支援においては、必然性のある学習場面において具体的な活動を通して学ぶことができるようにする必要がある。このことにより、児童生徒は、生活を意識しながら目的意識をもって取り組んだり、指導場面における活動を意味付け・価値付けをしたりすることも可能となる。また、児童生徒によっては、教師との一対一による個別的な指導・支援を必要とする場合や、徐々にかわる他者や場面を広げていくことを必要とする場合もある。

領域・教科を合わせた指導や各教科等における指導においては、それぞれの指導形態における活動や目標を大切にするために、自立活動の内容や児童生徒個々のねらいや目標の位置付けが不明確になりがちである。

しかし、領域・教科を合わせた指導は、集団での活動が前提となっていることから、他者とのかかわりに関する活動場面が多く存在し、学んだことを深めたり広げたりすることができる。また、児童生徒にとって、実際的な状況下で生活に結び付いた具体的な活動場面において、他者とのかかわりに関する内容を学ぶことができるほかに、自立活動の時間を特設しての指導で学んだことと関連付けて取り組むことができる。



各教科等における指導についても、生活的なねらいをもたせたり、生活と結び付けて取り組んだりすることを大切にしている指導形態であることから、領域・教科を合わせた指導と同様のよさがある。

自立活動の時間を特設しての指導においては、個別指導の形態で行われることが多いことから、児童生徒一人一人への指導内容を明確にした上で、個々に応じた支援を行うことができる指導形態である。さらには、個別指導の形態から、他者のかかわりを広げるために小集団を編成するなど、指導内容をもとにした学習活動を展開することができる。

これらのことから、特別支援学校（知的障がい）の教育課程において、領域・教科を合わせた指導や各教科等における指導での取組、時間を特設しての指導での取組など、それぞれの指導形態のよさを生かしながら、それらの指導形態から選択したり、組み合わせたり、発展させたりしながら指導・支援を行っていくことが必要であると考え。

#### イ 推進面への取組

##### (ア) 自立活動の基本的な考え方等についての理解

今回の特別支援学校学習指導要領の改訂では、自立活動において、自閉症の特性に応じた効果的な指導の形態についての研究実践の内容が盛り込まれたり、新たに「人間関係の形成」の区分を設定したりするなど内容の見直しが大幅に行われた。これらの内容を含めた自立活動の基本的な考え方は、特別支援学校学習指導要領や特別支援学校学習指導要領解説自立活動編で示されている。

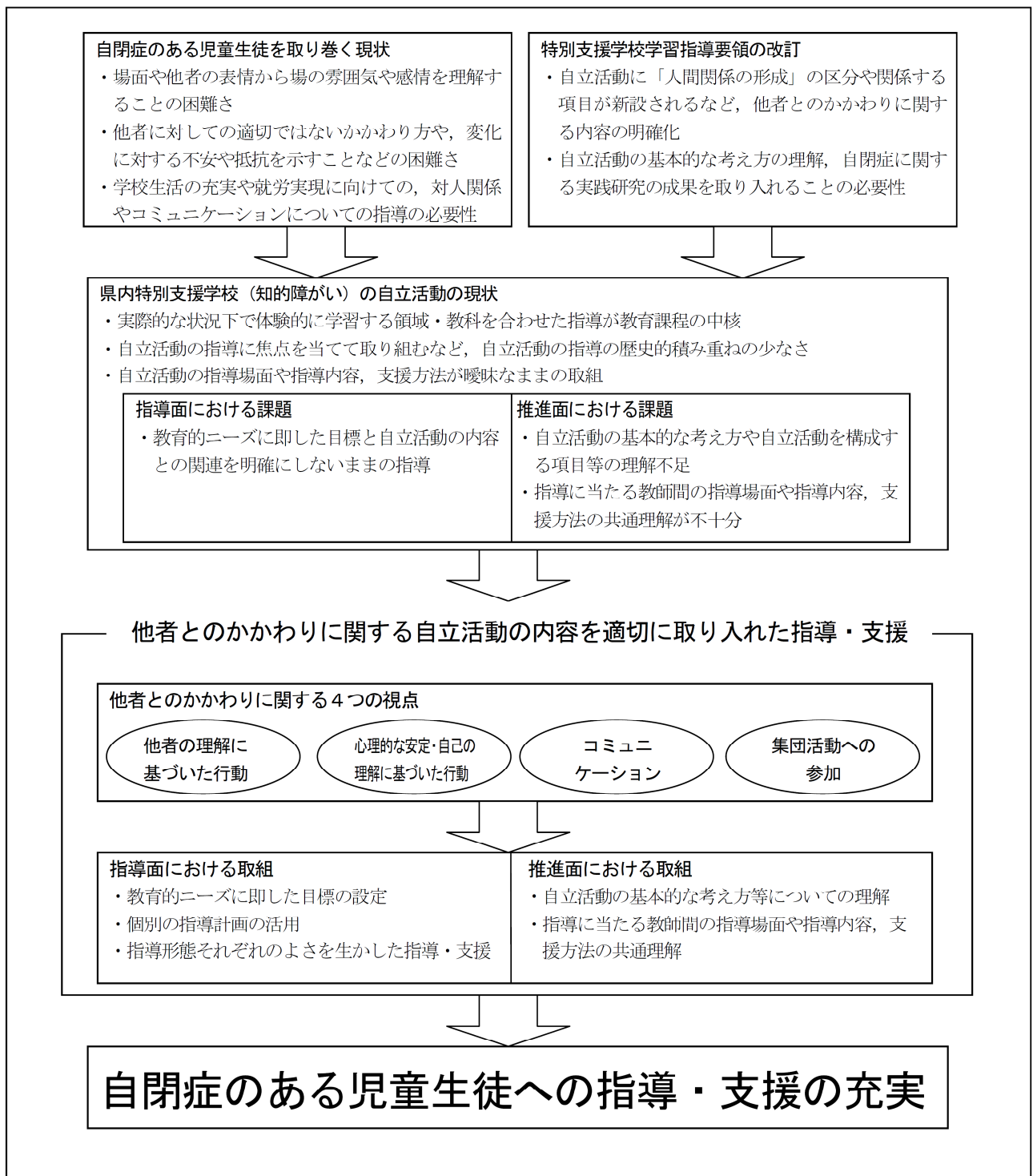
したがって、各校においては、自立活動の基本的な考え方を理解しながら、これまでの特別支援学校（知的障がい）における自立活動の指導を振り返り、それぞれの学校教育目標の具現化のために、自立活動をどのように取り扱いながら教育課程を編成・運用していくことが望ましいのかを確認していくことが必要である。さらには、日常的に児童生徒の指導に当たる学年内の教師集団が、具体的な指導につながるような運用の仕方を自立活動の理解と合わせて確認していくことが必要であると考え。

##### (イ) 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解

自閉症のある児童生徒への、学校生活の充実や就労実現に向けての対人関係やコミュニケーションといった他者とのかかわりについての指導・支援を考えるに当たっては、指導に当たる教師間で、自閉症のある児童生徒への他者とのかかわりに関する目標や指導内容、指導場面等を理解し、指導・支援に当たることが大切である。教師間で共通理解することにより、自閉症のある児童生徒への指導・支援の場を広げたり繰り返したりすることができる。また、多くの教師により児童生徒を見取ることにつながり、適切な評価やより適切な指導・支援の検討につながるものと考え。

#### (4) 特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本構想図

特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本構想図を7頁【図1】に示す。



【図1】特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に関する基本構想図

## 2 他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案

### (1) 他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた手立ての試案の作成

基本構想により明らかになったことを基に、以下の観点から他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた試案を作成する。

#### 【試案】

- ◆ 「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案
- ◆ 「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案

「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案（9頁【表3】）は、個別の指導計画を活用し、教育的ニーズに即した目標を設定した上で、指導形態それぞれのよさを生かした取組につながるよう作成したものである。

自閉症のある児童生徒の学校生活の充実や就労実現を見据えた教育的ニーズを踏まえた上で、他者とのかかわりに関する指導内容を整理したり焦点化したりして、目標や指導内容、指導形態（指導場面）を設定することが大切であるとする。それが、担任による「個別の指導計画の作成①」である。

そして、それぞれの指導形態（指導場面）において単元の全体像を見通した上での、個別や集団場面での具体的な活動を想定しながら、それぞれの指導場面における目標や具体的指導内容を設定することが大切であるとする。それが、担任による「個別の指導計画の作成②」である。さらに学年会で「個別の指導計画の作成①」と「個別の指導計画の作成②」を検討することにより、目標や指導内容、指導形態（指導場面）等の妥当性が図られるものとする。

「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案（10頁【表4】）は、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援につながるよう、校内教職員による自立活動の基本的な考え方の理解や、指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解のために作成したものである。

指導形態のそれぞれのよさを生かした取組につなげるためには、自立活動の基本的な考え方や学校ごとに編成している教育課程の運用についての理解を図る必要がある。そのためには、指導に当たる教師間だけでなく、学校全体としての取組にする必要がある。したがって、自立活動の基本的な考え方等に関する内容についての校内研修を設定することにした。

また、実践につなげるためには、対象となる児童生徒の理解やその児童生徒の目標や指導内容等について、指導に当たる教師間の共通理解が必要になってくる。したがって、実践につなげるための学年会の進め方や、個別の指導計画を活用した指導・支援についてなどの共通理解を図るための学年会を設定することにした。

【表3】「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案

指導・支援の展開	指導面に関する内容	推進面に関する内容	使用するもの
個別の指導計画の作成①	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育的ニーズに即した目標の設定</li> <li>◆個別の指導計画の活用</li> </ul> <p>学校生活の充実や就労実現を見据えた優先目標や指導内容、指導場面の設定</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかわりに関する指導内容表</li> <li>・個別の指導計画</li> </ul>
検討		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解</li> </ul> <p>学年会による、個別の指導計画を活用した、優先目標や指導内容、指導場面の検討及び共通理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかわりに関する指導内容表</li> <li>・個別の指導計画</li> <li>・学年会の進め方資料</li> </ul>
個別の指導計画の作成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育的ニーズに即した目標の設定</li> <li>◆個別の指導計画の活用</li> </ul> <p>指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の設定</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかわりに関する指導内容表</li> <li>・個別の指導計画</li> </ul>
検討		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解</li> </ul> <p>学年会による、個別の指導計画を活用した、指導場面における目標や具体的指導内容、支援方法の検討及び共通理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかわりに関する指導内容表</li> <li>・個別の指導計画</li> <li>・学年会の進め方資料</li> </ul>
実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指導形態それぞれのよさを生かした指導・支援</li> <li>◆個別の指導計画の活用</li> </ul> <p>他者とのかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた領域・教科を合わせた指導や教科等における指導での取組、時間を特設しての取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解</li> </ul> <p>学年会による、個別の指導計画を活用した、指導場面における目標や具体的指導内容、支援方法に基づく実践と評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画</li> </ul>
検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育的ニーズに即した目標の設定</li> <li>◆個別の指導計画の活用</li> </ul> <p>実践に基づく、他者とのかわりに関する指導内容表を活用しての指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の確認と修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解</li> </ul> <p>学年会による、個別の指導計画を活用した、指導場面における目標や具体的指導内容、支援方法の確認と修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画</li> <li>・学年会の進め方資料</li> </ul>
個別の指導計画による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個別の指導計画の活用</li> </ul> <p>実践に基づく、目標、指導場面、指導内容、指導方法の評価、上学年や上学部への引継</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかわりに関する指導内容表</li> <li>・個別の指導計画</li> </ul>

【表4】「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案

校内研修	学年会
<p>◆自立活動の基本的な考え方等についての理解</p> <p>【スライド資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の基本的な考え方</li> <li>・学校生活の充実や就労実現のための取組</li> <li>・他者とのかかわりに関する4つの視点</li> </ul>	<p>◆指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解</p> <p>【紙ベース資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会の進め方</li> <li>・他者とのかかわりに関する指導内容表</li> <li>・個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方</li> </ul> <p>【デジタルデータ資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の様式・記入方法・記入例</li> </ul>

(2) 検証計画

他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた手立ての試案の妥当性について

【表5】に示した検証計画に基づいて検証する。

【表5】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の仕方
他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援	指導面の取組	<p>○観察法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の様子を観察し、記録する</li> <li>・個別の指導計画の評価を記録する</li> </ul> <p>○質問紙法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後の質問紙による意識調査</li> </ul> <p>[担任]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の指導記録と個別の指導計画の評価を分析し、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を取り入れた指導面の取組について考察する</li> <li>・質問紙の結果を分析し、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を取り入れた指導の取組について考察する</li> </ul>
	推進面の取組	<p>○質問紙法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後の質問紙による意識調査</li> </ul> <p>[担任]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問紙の結果を分析し、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を取り入れた推進面の取組について考察する</li> </ul>

### 3 他者とのかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案に基づく指導実践

#### (1) 指導実践の概要

岩手県立盛岡みたけ支援学校小学部第4学年と中学部第1学年を対象に指導実践を行った。期日、実践内容等の概要を示したものが【表6】である。

【表6】指導実践の概要

期日	主な実践内容	対象者
指導実践1 8月19日(金)	研修	副校長 小学部4年1組担任, 4年2組担任 中学部1年3組担任, 1年4組担任
指導実践2 8月19日(金)	学年会(個別の指導計画の作成①)	副校長 小学部4年1組担任, 4年2組担任 中学部1年3組担任, 1年4組担任
指導実践3 8月22日(月)	作業(個別の指導計画の作成②)	小学部4年1組担任, 4年2組担任 中学部1年3組担任, 1年4組担任
指導実践4 8月24日(水) 8月31日(水)	学年会(検討)	副校長 小学部4学年団, 中学部1学年団
指導実践5 9月1日(木) 9月8日(木) 9月14日(水) 9月20日(火)	実践	小学部4学年団, 中学部1学年団
	学年会(検討)	副校長 小学部4学年団, 中学部1学年団
	実践	小学部4学年団, 中学部1学年団
指導実践6 9月21日(水)	学年会(個別の指導計画による評価)	副校長 小学部4学年団, 中学部1学年団

#### (2) 指導実践の内容

##### ア 指導実践1

指導実践1は、「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案のスライド資料(12頁【資料1】)により、自立活動の基本的な考え方等についての理解を図ることを目的として実施した。指導実践1の内容については【表7】に示す通りである。

【表7】指導実践1の内容

校内研修	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修               <ol style="list-style-type: none"> <li>スライド資料を用いての研修</li> <li>スライド資料の内容についての協議</li> </ol> </li> </ul>
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>副校長</li> <li>小学部4年1組担任, 4年2組担任</li> <li>中学部1年3組担任, 1年4組担任</li> </ul>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライド資料               <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自立活動の基本的な考え方</li> <li>◆学校生活の充実や就労実現のための取組</li> <li>◆他者とのかわりに関する4つの視点</li> </ul> </li> <li>スライド資料印刷物</li> </ul>
様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>約30分の研修を実施した。スライド資料印刷物にメモを取りながら聞く様子が見られた。</li> <li>スライド資料の内容についての協議では、以下の発言があった。               <ul style="list-style-type: none"> <li>「基本的な考え方について概ね分かった。」</li> <li>「将来を見据えた自立活動の内容を考える良い機会となった。」</li> <li>「自立活動に名称変更されたことの意味や、ICFの考え方も盛り込んだ方が良いのではないか。」</li> <li>「4つの視点の用語について検討する必要があるのではないか。」</li> </ul> </li> </ul>


【資料1】スライド資料※一部抜粋

1 自立活動の現状の理解

自立活動って？…何を指導したらいいの？

合わせた指導に入っているから、自立活動の時間は必要ないんじゃないの！

教育活動全体で指導することのようだけど、どう指導すればいいのかわからない！



◆学習指導要領改訂の背景と要点

- ・「21世紀の特殊教育の在り方に関する調査研究協力者会議」最終報告(2001年)において、自閉症の児童生徒への特性に応じた対応の必要性
- ・自閉症の特性に応じた効果的な指導の形態についての研究実践の内容が盛り込まれた
- ・「人間関係の形成」の区分の新設など

◆他者とのかかわりに関する4つの視点

視 点	自立活動との関連
他者の理解に基づいた行動	3 人間関係の形成 (1)(2)
心理的な安定・自己の理解に基づいた行動	2 心理的な安定 (1)~(3) 3 人間関係の形成 (3)
コミュニケーション	6 コミュニケーション (1)~(5)
集団参加	3 人間関係の形成 (4)

イ 指導実践2

指導実践2は、「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案のスライド資料(12頁【資料2】)と紙ベース資料(13頁【資料3】)により、自立活動の基本的な考え方等についての理解をさらに図るとともに、教育的ニーズに即した優先目標を検討し、指導に当たる教師間の共通理解を図ることを目的として実施した。指導実践2の内容については【表8】に示す通りである。

【表8】指導実践2の内容

学 年 会	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会(個別の指導計画の作成①)</li> <li>1 スライド資料や紙ベース資料を用いての学年会</li> <li>2 紙ベース資料を用いての教育的ニーズに即した優先目標の検討</li> <li>3 教育的ニーズに即した優先目標の共通理解</li> </ul>
対 象 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副校長</li> <li>・小学部4年1組担任、4年2組担任</li> <li>・中学部1年3組担任、1年4組担任</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライド資料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆他者とのかかわりに関する4つの視点</li> <li>◆個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方</li> </ul> </li> <li>・紙ベース資料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆学年会の進め方</li> <li>◆他者とのかかわりに関する指導内容表</li> <li>◆個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方</li> </ul> </li> </ul>
様 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導実践1による研修後に、小学部4年と中学部1年による学年会を約1時間行った。</li> <li>・教育的ニーズに即した優先目標の設定では、児童生徒の様子や実際の場面を見据えながら活発に意見交換をする様子が見られた。</li> <li>・教育的ニーズに即した優先目標を検討する場面では、以下の発言があった。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>「現場では場面ありきで実践が始まるので、指導内容表のような具体性があるのは良い。」</li> <li>「指導内容表について、もう少し説明してほしい。」</li> <li>「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方がイメージできた。」</li> <li>「具体例(記入例)があったので、理解できた。」</li> <li>「優先目標の評価欄はなくて良いのか。」</li> </ul> </li> </ul>

【資料2】スライド資料※一部抜粋

優先目標の設定

↓

優先目標を指導する指導場面等を設定

↓

指導場面における目標や支援方法の設定

↓

授業実践

◆指導計画

◆ステップ1: 教育的ニーズに即した優先目標を設定しましょう。

優先目標	自立活動との関連
作業の早讀しが遅く、同じ学年の友達と一緒に物作り等の作業を行う。	指導内容表: 集団参加(共同での作業と役割分担) 学習指導要領: 3(4)

◆ステップ2: 優先目標を指導する指導場面等を設定しましょう。

◆ステップ3: 指導場面における目標や支援方法を設定しましょう。

目 標	支 援 方 法	評 価
日常生活の場面において、おんこと一緒に長靴を履く。 日常生活場面(生活)	★長靴履き指導をばらばらのペアに促して、繰り返し、取り組めようとする。 ★長靴を履けやすくなるように持つ部分に指導する。	
家庭スワットとびの練習のスマイルマークシートにおいて、おんこと一緒にボールを蹴り飛ばす。	★おんことペアにする。 ★おんこと指導者と一緒に指導者と一緒に蹴り飛ばすための活動の場を一定にする。	

【資料】

## 他者とのかかわりに関する指導内容表

【他者とのかかわりに関する自立活動を取り入れた指導において目指す力】

視 点	他者の理解に基づいた行動	心理的な安定・自己の理解に基づいた行動	コミュニケーション	集 団 参 加
自立活動との関連	3 人間関係の形成（1）（2）	2 心理的な安定（1）～（3） 3 人間関係の形成（3）	6 コミュニケーション（1）～（5）	3 人間関係の形成（4）
他者とのかかわりに関	言葉や表情、身振りなどから教師や友達等の意図や感情を理解し、力を合わせて行動する力	自分の特徴などを理解し、集団の中で、自分の気持ちや情緒をコントロールして状況に応じて行動	言葉などのコミュニケーション手段により、教師や友達等の意図や感情を受け止めたり、場や相手を	集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、集団活動に参

### 心理的な安定・自己の理解に基づいた行動

※自立活動との関連 2 心理的な安定（1）～（3）、3 人間関係の形成（3）

【ねらい】

- ・安定した情緒の下で生活できる。
- ・場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応する。
- ・自分の障がいの状態を理解したり、受容したりして、積極的に障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図る。
- ・自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができる。
- ・自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲の向上を図る。

指 導 内 容	具体的指導内容	指導場面例
環境要因の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快刺激が分かる。</li> <li>・不快刺激が分かる。</li> <li>・不快刺激を回避・除去する。</li> </ul>	<p>【領域・教科を合わせた指導における指導場面例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事や実習場面活動</li> <li>・校外での買い物やレストランでの食事の場面</li> <li>・自分の欲しい物や食べたい物を伝える場面等</li> </ul>
ストレスマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスフルな状態が分かる。</li> <li>・ストレスサーが分かる。</li> <li>・ストレスサーを回避・除去する。</li> <li>・ストレスフルな状態でのクールダウンの方法が分かる。</li> <li>・ストレスフルな状態でクールダウンする。</li> <li>・ストレスフルになる前にクールダウンする。</li> <li>・クールダウンを活動に位置付けて取り組む。複数のものから自分の好きなものを選択する。</li> </ul>	<p>【教科別・領域別の指導における指導場面例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校朝会等の集会活動や運動会、学習発表会等における、安定して取り組める場面に気持ちや情緒のコントロールが必要であると思われる、本人にとって不得意な場面</li> </ul> <p>【特設しての指導場面例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情の認知やコントロールについて学ぶ活動（表情カードを使用し、色々な感情について知る。自分の感情と表情カードのマッチングをする）</li> </ul> <p>〈指導上の留意点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊環境的な要因が心理面に大きく関与していることも考えられるこ</li> </ul>
困難・葛藤場面等での対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難・葛藤場面で緊張しないような手立てをとる。</li> <li>・困難・葛藤場面で緊張しないで活動する。</li> </ul>	



ウ 指導実践 3

指導実践 3 は、「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案について、紙ベース資料とデジタルデータ資料により、指導実践 2 で検討した優先目標について指導場面における具体的な指導内容、支援方法を設定することを目的として実施した。指導実践 3 の内容については【表 9】に示す通りである。

【表 9】指導実践 3 の内容

学 年 会	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業（個別の指導計画の作成②）</li> <li>1 各担任による紙ベース資料やデジタルデータ資料を用いての、指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の検討</li> </ul>
対 象 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部 4 年 1 組担任、4 年 2 組担任</li> <li>・中学部 1 年 3 組担任、1 年 4 組担任</li> </ul>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙ベース資料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆他者とのかかわりに関する指導内容表</li> <li>◆個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方</li> </ul> </li> <li>・デジタルデータ資料                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◆個別の指導計画の様式・記入方法・記入例</li> </ul> </li> </ul>
様 子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部担任は、紙ベース資料の他者とのかかわりに関する指導内容表を活用しながら、指導場面における具体的な指導内容等を検討し、個別の指導計画の様式に入力している様子が見られた。</li> <li>・具体的な指導場面における児童生徒の姿をすでに設定していた担任（中学部）は、その姿を具体的な指導内容とし、その結果として表れる他者とのかかわりに関することを優先目標としたり学習指導要領と関連付けたりしながら作業している様子が見られた。</li> </ul>

【資料 4】小学部 4 年 1 組担任作成の個別の指導計画

小学部 4 年 1 組 氏名 <span style="background-color: black; color: black;">■■■</span> さん		記入者 <span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>	
<b>優 先 目 標</b>		<b>自 立 活 動 と の 関 連</b>	
身近な人に自分の要求、気持ちを正しい言葉で伝える。		指導内容表：コミュニケーション「言語による表出」 学習指導要領：6（2）	
<b>目 標</b>	<b>支 援 方 法</b>	<b>評 価</b>	
日常生活の指導	<p>昼休み時間、担任の問い掛けを聞いて、どこに行き遊びたいかを言葉で伝える。</p> <p>*活動の流れを一定にし、活動を定着できるようにする。</p> <p>①担任は<span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>さんに近付き、正面から「どこに行き遊びますか」と言葉で問い掛ける。</p> <p>②<span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>さんは「体育館に行きます」と言葉で伝える。</p> <p>③担任は<span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>さんが言葉で伝えたことを称賛し、「行ってらっしゃい」と送り出す。</p> <p>*<span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>さんが、言葉に詰まっている場合には、指導者が<span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>さんの横で「体育館」「体」などと言って、ヒントを与える。</p> <p>*指導者は、<span style="background-color: black; color: black;">■■■</span>さんが話を聞くとさや話すときには、担任の顔を注目するように声掛けや指差しなどして支援する。</p>		

【資料5】 中学部 1年 4組 担任作成の個別の指導計画

中学部 1年 4組 氏名 <span style="background-color: black; color: black;">          </span> さん		記入者 <span style="background-color: black; color: black;">          </span>	
<b>優先目標</b>		<b>自立活動との関連</b>	
単元活動に際して、安定した気持ちで、首尾良く存分に取り組んでほしい。		指導内容表：心理的な安定 学習指導要領：2（1）（2）	
	<b>目 標</b>	<b>支 援 方 法</b>	<b>評 価</b>
生活単元学習	・「双幅」ブランドの木工製品「はにかむスツール」の製作では、穴あけ作業を繰り返し正確に取り組んでほしい。  ・『28人で木童団』ブランドとしての学年での木製ベンチの製作では、部材の辺部分の研磨作業を持続的に取り組んでほしい。	・①豊富な作業量を準備する。②ボール盤を用い、穴あけ位置を定めるガイドを用いる。③加工前後の材料の物理的な流れが一方向になるような動線を示す。  ・①豊富な作業量を準備する。②部材の辺部分を研磨しやすい「ハンモックサンダー」を用いる。③ハンモックサンダーの使い方、作業動作を確認する。④「1, 2, 3…」と視線を合わせて声掛けをし、作業動作の反復と持続を促す。	
自立活動	・安定した気持ちで活動に取り組んでほしい。不安定な気持ちのときには、発散し、気持ちを回復してほしい。	・①不調時には、気持ちをなだめつつ、活動を順次提示していき、それに取り組むよう促す。②朝のランニングでは、一定のペースで走り続けるよう、声を掛けたり姿勢やフォームを整えたりするよう促す。動作のポイントを言語化して伝え、それを話してから動作に移るようにする。	

エ 指導実践4

指導実践4は、「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案について、紙ベース資料とデジタルデータ資料印刷物により、指導実践2で検討した優先目標について指導場面における具体的な指導内容、支援方法を設定することを目的として実施した。指導実践4の内容については【表10】に示す通りである。

【表10】 指導実践4の内容

学 年 会	
内 容	・学年会（検討） 1 週案について 2 学年行事について 3 紙ベース資料やデジタルデータ資料印刷物を用いての、指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の設定 4 設定した指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の共通理解
対 象 者	・副校長 ・小学部4学年団 ・中学部1学年団
資 料	・紙ベース資料 ◆学年会の進め方 ◆他者とのかかわりに関する指導内容表 ◆個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方 ・デジタルデータ資料印刷物 ◆個別の指導計画

様子

【8月24日(火)】

- ・日常的に行われている学年会の中に、指導場面における具体的な指導内容、支援方法の設定について話し合う場面を設けた。1時間の学年会の中、指導場面における指導内容等の話し合いは40分間行った。
- ・指導場面における目標等の話し合いは、以下の流れで行った。
  - ① 担任から対象となる児童生徒の様子についての説明
  - ② 担任による、優先目標の提案
  - ③ 学年団による、優先目標についての検討
  - ④ 担任による、指導場面における目標及び支援方法の提案
  - ⑤ 学年団による、指導場面における目標及び支援方法の検討
- ・担任からの対象となる児童生徒の様子についての説明や、話し合いをする中で、担任以外の教師が知り得ていなかった様子を共通理解する場となっている様子が見られた。
- ・指導場面は、対象となる児童生徒の優先目標や学校生活から、それぞれの児童生徒によって異なるものとなった（小4 Aさん：日常生活の指導、小4 Bさん：自立活動、中1 Cさん：生活単元学習と自立活動、中1 Dさん：生活単元学習と作業学習）。
- ・指導場面における目標等は仮のものとし、学年団の教師が対象となる児童生徒を意識しながら見取ったり、関わっていったりする中で変更することもあることを確認した。
- ・次回は、8月31日(水)に再度検討することを確認した。
- ・話し合いをする中で、以下の発言があった。  
「学年会の中で、このように児童生徒の様子について語り合うこと、共通理解していく必要がある。」

-----  
【8月31日(水)】

- ・日常的に行われている学年会の中に、指導場面における具体的な指導内容、支援方法の設定について話し合う場面を設けた。1時間の学年会の中、指導場面における目標等の話し合いは20分間行った。
- ・指導場面における目標等の話し合いは、以下の流れで行った。
  - ① 担任による、指導場面における目標及び支援方法の確認
  - ② 学年団による、指導場面における目標及び支援方法の検討
- ・前回の学年会において、指導場面を学年団で共通理解したり、学年団の教師全員が、その場面における対象となる児童生徒の思いや行動を見取ったりしていたことから、前回以上に具体的な話し合いの様子が見られた。
- ・話し合いをする中で、以下の発言があった。  
「具体的な指導内容や支援方法等については、まだまだ検討の余地があるかもしれない。実践を通してさらに子どもを見取り、適切な指導と必要な支援につながるようにしていく。」  
「指導場面について、これからも検討していきましょう。」  
「これからも学年会を利用して、子どものことについて語っていくのがいいね。」  
「VTRを撮っておいて、次のときの話し合いに使うのはどうだろう。」

オ 指導実践5

指導実践5は、「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案について、指導に当たる教師が、指導場面における具体的な指導内容、支援方法を修正・改善しながら実践していくことを目的として実施した。指導実践5の内容については【表11】に示す通りである。

【表11】指導実践5の内容

学 年 会	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践</li> <li>・学年会（検討）               <ol style="list-style-type: none"> <li>1 週案について</li> <li>2 学年行事について</li> <li>3 紙ベース資料やデジタルデータ資料印刷物を用いての、指導場面や具体的な指導内容、支援方法の修正・改善</li> <li>4 設定した指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の共通理解</li> </ol> </li> </ul>
対 象 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副校長</li> <li>・小学部4学年団</li> <li>・中学部1学年団</li> </ul>

資料

- ・紙ベース資料
  - ◆学年会の進め方
  - ◆他者とのかかわりに関する指導内容表
  - ◆個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方
- ・デジタルデータ資料印刷物
  - ◆個別の指導計画

様子

【実践】



小学部第4学年 日常生活の指導  
担任に「体育館に行ってきます」と言葉で伝えるAさん



小学部第4学年 日常生活の指導  
担任に称賛されて喜ぶAさん



小学部第4学年 日常生活の指導  
1年生の教師に「ビデオが見たいです」と言葉で伝えるAさん



小学部第4学年 自立活動の時間を特設した指導  
担任手作りのコミュニケーションブックを使い自分の欲しい物を要求するBさん

- ・これまでは、主に担任のみが児童生徒にかかわりがちになっていたが、他の教師がかかわる場面が増えたり、対象となる児童生徒を、指導場面における目標や具体的な指導内容等の視点で見取ったりしている様子が多く見られた。
- ・児童生徒の指導場面や指導内容、支援方法が焦点化され、具体化されると、日常的に児童生徒の指導・支援について話題にすることが多くなった。その結果、同方向性での指導・支援ができ、児童生徒のねらいの達成につながった。

【学年会（検討）】

- ・日常的に行われている学年会の中に、指導場面における目標や具体的な指導内容、支援方法の設定について話し合う場面を設けた。1時間の学年会の中、指導場面における目標等の話し合いは20分間行った。
- ・指導場面における目標等の話し合いは、以下の流れで行った。
  - ① 撮影したVTRの視聴
  - ② 学年団による、指導場面における目標及び支援方法の検討
- ・撮影したVTRをもとに検討したことから、指導場面における目標や具体的な指導内容について共通理解を図りながら話し合っている様子が見られた。
- ・対象となる児童生徒について、指導場面以外での行動について情報を交流し合う様子が見られた。
- ・話し合いをする中で、以下の発言があった。
  - 「成果が上がってきている。」
  - 「VTRに録っておいたことも良かったし、何となく子どもたちを気を付けて見るようになった気がする。」
  - 「研究授業のときに、自分の要求を言葉で伝える様子が見られた。」
  - 「子どもが成長することにより、新たな課題が表れる。これからも、他者とのかかわりに関する指導内容表を活用しながら検討していこう。」

【資料6】実践を通して修正した小学部4年1組担任作成の個別の指導計画

小学部 4年1組 氏名 ■■■さん

・気持ちも要求に含まれると考え、優先目標を設定し直した。

記入者 ■■■

優先目標	自立活動との関連
身近な人に自分の要求を正しい言葉で伝える。	指導内容表：コミュニケーション「言語による表出」 学習指導要領：6（2）

目標	支援方法	評価
<p>昼休み時間、担任に「体育館に行きます」と言葉で伝える。</p> <p>・昼休み時間、体育館で過ごすことが多いことから、目標を「体育館に行きます」と言葉で伝える。」と具体的にした。</p>	<p>*活動の流れを一定にし、活動を定着できるようにする。</p> <p>①担任は■■■さんに近付き、正面から「どこに行って遊びますか」と言葉で問い掛ける。</p> <p>②■■■さんは「体育館に行きます」と言葉で伝える。</p> <p>③担任は■■■さんが言葉で伝えたことを称賛し、「行ってらっしゃい」と送り出す。</p> <p>*■■■さんが、言葉に詰まっている場合には、指導者が■■■さんの横で「体育館」「体」などと言って、ヒントを与える。</p> <p>*■■■さんが注意散漫などときには、順番カード(写真1)を提示し、誰に、何と言うのかを確認する。</p> <p>*指導者は、■■■さんが話を聞くときや話すときには、担任の顔を注目するように声掛や指差しなどして支援する。</p>	<p>・注意散漫となる場面も想定して、支援方法を追加した。</p> <p>・使用する教材を追加した。</p>

日常生活の指導




写真1 順番カード

カ 指導実践6

指導実践6は、「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案について、作成・活用した個別の指導計画と実践に基づく、指導場面における具体的な指導内容、支援方法の評価を目的として実施した。指導実践6の内容については【表12】に示す通りである。

【表12】指導実践6の内容

学 年 会	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会（個別の指導計画の評価）</li> <li>1 週案について</li> <li>2 学年行事について</li> <li>3 デジタルデータ資料印刷物を用いての、指導場面における具体的な指導内容、支援方法の評価</li> </ul>
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副校長</li> <li>・小学部4学年団</li> <li>・中学部1学年団</li> </ul>

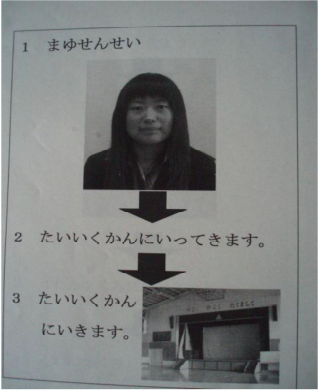
資料	・デジタルデータ資料印刷物 ◆個別の指導計画
様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団のすべての教師が、対象となる児童生徒の様子や支援方法の妥当性についての意見を話す姿が見られた。</li> <li>・話し合いをする中で、以下の発言があった。 「この成果をもとに、これからの学校生活でも引き続き指導内容を設定して指導していくことが良いのではないか。」 「共通理解による支援の実現のために、学年会だけでなく学部会でこのように子どものことを話題にしていくのが良いのではないか。」</li> </ul>

【資料7】小学部4学年団の評価による個別の指導計画

小学部 4年1組 氏名 ■■■■ さん

記入者 ■■■■

優先目標	自立活動との関連
身近な人に自分の要求を正しい言葉で伝える。	指導内容表： コミュニケーション「言語による表出」 学習指導要領： 6（2）

	目 標	支 援 方 法	評 価
日常生活の指導	<p>昼休み時間、担任に「体育館に行きます」と言葉で伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れを一定にし、活動を定着できるようにする。</li> <li>①担任は<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんに近付き、正面から「どこに行つて遊びますか」と言葉で問い掛ける。</li> <li>②<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんは「体育館に行きます」と言葉で伝える。</li> <li>③担任は<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんが言葉で伝えたことを称賛し、「行ってらっしゃい」と送り出す。</li> <li>・<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんが、言葉に詰まっている場合には、教師が<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんの横で「体育館」「体」などと言って、ヒントを与える。</li> <li>・<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんが注意散漫などときには、順番カード(写真1)を提示し、誰に、何と言うのかを確認する。</li> <li>・教師は、<span style="background-color: black; color: black;">■■■■</span>さんが話を聞くときや話すときには、担任の顔を注目するように声掛や指差しなどして支援する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p>写真1 順番カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の流れを一定にして支援に当たったり、教師の支援を段階的に減らしたりしたことにより、教師に促されなくても、自分から担任に「体育館に行きます」と言葉で伝えられるようになった。</li> <li>・9月2週目から、昼休みの行き先が体育館と小学部1年2組の教室になった。 自分の行きたい場所を担任に言葉で伝えることができていた。</li> <li>・ランニング後に「冷たいお茶、飲みたいです」、昼休み時間に「〇〇のビデオが見たいです」等と学校生活の様々な場面において、学級の教師に自分の要求を言葉で伝えられるようになってきている。</li> </ul>

## 4 実践結果の分析と考察

### (1) アンケート調査の内容と方法

「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案と「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容・支援方法の共通理解」の試案の有効性と、改善の視点を明らかにするために、岩手県立盛岡みたけ支援学校小学部4年1組と2組の担任2名、中学部1年3組と4組の担任2名へのアンケート調査を行った。

アンケート調査の内容と方法、処理・解釈の仕方等については、【表13】に、アンケートの設問については、【表14】に示す通りである。

【表13】アンケート調査の内容と方法

調査内容		対象	調査方法	処理・解釈の仕方
1	自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標設定をすることについての有効性及び改善点	県立盛岡みたけ支援学校 小学部4年担任2名 中学部1年担任2名	評定尺度及び自由記述の質問紙（設問1）	記述内容から、「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案と、「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の共通理解」の試案の有効性及び改善の視点等について分析・考察
2	個別の指導計画の活用を図ることについての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙（設問2）	
3	それぞれの指導形態のよさを生かしながら、それらの指導形態の中から選択したり、組み合わせたり、発展させたりしながら指導・支援に当たることについての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙（設問3）	
4	他者とのかかわりを含めた自立活動の基本的な考え方や理解を図ることについての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙（設問4）	
5	指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解を図ることについての有効性及び改善点		評定尺度及び自由記述の質問紙（設問5）	

【表14】アンケート調査の設問内容

設問番号	設問内容
1	他者とのかかわりに関する指導内容表を活用して、目標等を設定することができたか。
2	個別の指導計画を作成・活用し、自立活動における他者とのかかわりに関する実践につなげることができたか。
3	自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援を展開することができたか。
4	他者とのかかわりを含めた自立活動の基本的な考え方について理解できたか。
5	学年会で個別の指導計画を活用し検討したことにより、指導に当たる教師間の共通理解が図られたか。

### (2) 調査結果の分析と考察

#### ア 自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標設定をすることについて

他者とのかかわりに関する指導内容表の活用による、目標等の設定への有効性について、全員がプラス回答である。自由記述から主なものを挙げる。

- ・目標設定の目安になると思った。
- ・活動の内容を整理できた。
- ・指導計画の作成時や学年会での検討時に、他者とのかかわりに関する指導内容表を活用したことで、整理しながら考えることができた。

一方、設問1において課題として記述されているものや、要望として記述されている主なものは以下の通りである。

- ・優先目標は、対象児の課題性(単なる”できなさ””不都合さ”)への注目を強める印象がある。目標というより注目すべき(したい)「内容」という印象だと好ましく思える。

「優先目標」の語感から、教師主体の指導色が濃いように感じられる場合があるものと思われる。学習指導要領等で使われている「内容」との混同を避けながら、障がいによる改善・克服だけではなく、指導に当たって注目すべき点という印象を受けることができるよう、「優先目標（ねらい）」という表記にすることが必要である。また、児童生徒の主体的な活動の設定やICFの考え方を踏まえた自立活動について、さらに共通理解を図ることも必要である。

#### イ 個別の指導計画の活用を図ることについて

自立活動における他者とのかかわりに関する実践への見通しをもつことについての有効性について、全員がプラス回答である。自由記述には以下の感想があった。

- ・自分なりに解釈していたが、具体例を聞いてイメージできた。

設問2において課題や、要望として記述されているものは、なかった。

#### ウ それぞれの指導形態のよさを生かしながら、それらの指導形態の中から選択したり、組み合わせたり、発展させたりしながら指導・支援に当たることについて

自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援を展開することについての有効性について、全員がプラス回答である。自由記述から主なものを挙げる。

- ・生活に結び付いた具体的な活動の中で、必然性のある流れの中で指導場面を設定することができた。その結果、自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援を行うことができた。
- ・自立活動の内容を考える際に、個別の指導目標、学級経営案を見直す機会にもなった。
- ・展開内容・結果については、質的な検討を要すると自覚しているが、本取組全体を通じ、日常の我々の取組が本取組の理論的枠組みを借用したときにも確かに説明可能なものと理解している。

#### エ 他者とのかかわりを含めた自立活動の基本的な考え方等の理解を図ることについて

他者とのかかわりを含めた自立活動の基本的な考え方の理解を図ることについての有効性について、全員がプラス回答である。自由記述から主なものを挙げる。

- ・知的障がい教育と他の身体障がい系（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱など）の教育の自立活動に対する基本的な考え方について理解することができた。
- ・自立活動の学習指導要領改訂の背景と要点について理解することができた。
- ・自閉症のある児童生徒の自立活動における指導課題について理解することができた。

一方、設問1において課題として記述されているものや、要望として記述されている主なものは以下の通りである。

- ・自閉症児にとって人間関係の形成は重要であるが、同時に改善・克服が最も困難であると思う。他者意識の欠如が障がい特性であり、本人の努力よりも周囲の人も含めた環境調整が大切であると思う。

今回の実践で使用した「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案では、「養護・訓練」から「自立活動」に名称が変更されたことの意味やICF（国際生活機能分類）の考え方について触れていなかったことが課題として挙げられたものと思われる。また、設問1で挙げられた課題からも、自立活動の基本的な考え方の理解を図る上でも、指導に当たる上でも必要な内容であることから、校内研修資料の中に盛り込んでいくことが必要である。

#### オ 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解を図ることについて

指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解を図ることの有効性について、



全員がプラス回答である。自由記述から主なものを挙げる。

- ・他の仕事を抱えて辛いこともあった。しかし、共通理解から言えば、知っているようで知らなかった児童の様子が分かったこと、言葉掛けなど共通した意識で当たらねばならないことを考えると、大切なことだと思った。
- ・同じ学年であっても普段接する場面が限られている中で、個々の行動特性などを知る機会となった。今後、子ども達が成長していく過程の様々な変化に対応していくためにも、このような話し合いが必要であると改めて感じた。
- ・児童の実態や支援の仕方など共通理解できたのは良かった。
- ・話し合うよい機会をもてて良かった。

一方、課題として記述されているものや、要望として記述されている主なものは以下の通りである。

- ・一人一人に焦点を当てて話し合うことは、時間がかかる。
- ・他の会議や授業の準備等で忙しい。

一人一人に焦点を当てて話し合うことの大切さを確認することの意義は大きなものであったと考える。支援学校だけに限らず、諸会議、校務分掌、教材研究等、教師は様々な仕事を抱えている。各学校の実状に合わせながら、この話し合いの価値を確認し続け、諸業務と調整を図り、時間を捻出していくことが望ましいものとする。ただし、教師への作成上の支援として、各学校でこれまで培ってきた個別の指導計画作成上の留意点やポイントについて、個別の指導計画の様式や記入方法・記入例に盛り込むことは必要であるとする。

## 5 他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援についてのまとめ

「個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた指導・支援の展開」の試案と「校内研修・学年会による自立活動の基本的な考え方や指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解」の試案に基づいた実践結果を踏まえた上での成果と課題について述べる。

### (1) 成果

ア 個別の指導計画の作成①（教育的ニーズに即した優先目標の検討）において、他者とのかかわりに関する指導内容表を活用した。その結果、自閉症のある児童生徒への他者とのかかわりに関する指導内容を整理したり焦点化したりすることができ、自閉症のある児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定につながった。

イ 最初の学年会において、個別の指導計画に自立活動の内容を位置付けた実践の進め方や、学年会の進め方の資料を活用し確認した。その結果、実践へのイメージが具体的になり、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の実践への見通しをもつことにつながった。

ウ 個別の指導計画の作成②において、個別の指導計画を活用し、指導場面における具体的な指導内容、支援方法を検討した。その結果、児童生徒の優先目標を設定した上で、生活に結び付けた実際的な指導場面や、指導場面における具体的な指導内容、支援方法について話し合うことができ、それぞれの指導形態のよさを生かした指導・支援につながった。

エ 研修会において、学校生活の充実や就労実現のための取組、自立活動の基本的な考え方等のスライド資料を活用した。その結果、学習指導要領改訂の背景と要点や知的障がい教育における自立活動の考え方等を理解することができ、自立活動の基本的な考え方等についての

理解につながった。

オ 学年会において、個別の指導計画に基づく実践の見直しのための話し合いを行った。その結果、対象児童生徒の様子、対象児童生徒の適切な指導や必要な支援など、学年内で検討し共通理解し、同方向性での指導・支援ができ、指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解につながった。また、対象児童生徒のねらいの達成につながった。

## (2) 課題

児童生徒の主体的な活動の設定や、ICFの考えを踏まえた自立活動の基本的な考え方の理解を図る必要がある。

## IV 研究のまとめ

本研究は、特別支援学校（知的障がい）における他者とのかかわりに関する指導面・推進面の要件を探り、実践を通して自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援について明らかにし、自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に役立てようとするものであった。以下、研究の成果と今後の課題について述べる。

### 1 研究の成果

- (1) 先行研究や文献等を参考に、県内の特別支援学校（知的障がい）の現状を踏まえた他者とのかかわりに関する自立活動の基本的な考え方や自閉症のある児童生徒への指導・支援に必要な指導面・推進面への取組などの、基本構想をまとめることができた。
- (2) 基本構想により明らかになったことを基に、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案を作成することができた。
- (3) 岩手県立盛岡みたけ支援学校小学部第4学年及び中学部第1学年を対象に、他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案に基づく指導実践を行うことができた。
- (4) 他者とのかかわりに関する自立活動の内容を適切に取り入れた指導・支援の試案は、特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援において、有効性が見られることが確認できた。
- (5) 他者とのかかわりに関する4つの視点、指導面における取組、推進面における取組は、特別支援学校（知的障がい）における自閉症のある児童生徒への指導・支援の充実に有効であるという見通しをもつことができた。

### 2 今後の課題

本研究においては、所属校における一部の実践にとどまっていることから、今後はさらに実践を広げ、実践に基づく修正・改善を図る必要がある。そのためにも、本研究の成果を資料にまとめ、県内各学校に広く配布し、各校での実践に役立ててもらいたいと考える。

## <おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童生徒のみなさんに心から感謝申し上げます。結びのことばといたします。

## 【引用文献】

- 文部科学省（2009），『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)』，教育出版 p. 7, pp. 13-14, p. 18, p. 22, p. 27, p. 33, pp. 78-79, pp. 93-94, p. 95, pp. 96-97
- 文部科学省（2009），『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)』，教育出版 pp. 153-154

## 【主な参考文献】

- 全国特殊学校長会（2005），『盲・聾・養護学校における「個別の教育支援計画」』，ジアース教育新社
- 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所（2004），『自閉症教育実践ガイドブック』，ジアース教育新社
- 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所（2005），『自閉症教育実践ケースブック』，ジアース教育新社
- 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（2008），『自閉症教育実践マスターブック』，ジアース教育新社
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著（2010），『新しい教育課程と学習活動Q & A特別支援教育[知的障害教育]』，東洋館出版
- 全日本特別支援教育研究連盟・名古屋恒彦（2010），『基礎から学ぶ知的障害教育』，日本文化科学社
- 全日本特別支援教育研究連盟（2011），『自閉症教育のすべて』，日本文化科学社
- 上野一彦・岡田智（2006），『特別支援教育 実践ソーシャルスキルマニュアル』，明治図書
- 鬼秀範（2008），『自立活動，自立活動的な学習の実践集 発達障害のある子どもの支援スタートブック』，明治図書
- 海津亜希子（2007），『個別の指導計画作成ハンドブック』，日本文化科学社
- 名古屋恒彦（2010），『特別支援教育「領域・教科を合わせた指導のABC」』，東洋館出版
- 宮崎英憲・横山孝子（2011），『特別支援学校新学習指導要領・授業アシスト3 よさを伸ばし，豊かな生活をつくる自立活動』，明治図書
- 全日本特殊教育研究連盟機関誌（1986），『発達の遅れと教育No.343』，日本文化科学社
- 全日本特殊教育研究連盟機関誌（1991），『発達の遅れと教育No.407』，日本文化科学社
- 全日本特別支援教育研究連盟編集（2010），『特別支援教育研究No.633』，東洋館出版
- 全日本特別支援教育研究連盟編集（2010），『特別支援教育研究No.639』，東洋館出版
- 全日本特別支援教育研究連盟編集（2011），『特別支援教育研究No.647』，東洋館出版
- 盛岡市立仁王小学校特別支援教育研究部（2009），『社会生活構成要素』